

第8回 調査グループ会合議事録

I. Computer Index の検討

日時 1966年4月21日 午後1時～5時半
場所 原研東海研 第6会議室
出席者 中島(龍), 中島(豊), 田中, 神田, 菊池, 森口, 河原崎, 大久保,
更田

議事

1 Data Sheet の Coverage 調べ

第2回整理作業までの Coverage Forms を調べた結果のリストについて
田中氏より説明があった。

2 41年度計算計画の討論を翌日22日に行なうことの説明が中島(龍)氏よりあった。

3 Data Sheet の Computer Index

(a) 田中氏より0次案について説明があった。考え方の基本はリーダーの負担をできるだけ軽くするというたてまえのもとに機械的に書けるようにすること, 出来る限り多方面から読み出しが出来るようにすること, Data Sheet の定期的整理の負担を軽くするなどである。

(b) 先ずCINDAとの関連や, そもそもこのComputer Index を作ることのメリットについて議論された。この際述べられた主なことは,

1) 同じ文献についてもCINDAに含まれているものよりも多くの information を記録させることが考えられるのみならず, Data Sheet に一対一に対応して Data Sheets の活用が円滑になる。

ii) 中性子以外の入射粒子の反応も含まれる。

iii) facilities の調査などにも利用出来るようにすることが考えられる。

iv) CINDA の magnetic tapes が入手出来るようになった場合には
適当な computer program で関係づけやうめ合わせが出来る。

などである。

(c) この後、Reference の書込方、Key Words^s に取るべき column の数
instruments の欄をもうけること、後から訂正する場合の問題、2枚ま
で cards を増して内容を充実する、など可成り具体的内容について論議さ
れた。

(d) 次回5月12日に第1次案を田中、森口、河原崎の3氏が作成して提出す
ることになった。

4 Data Sheet の新しいフォーム(特にKey Words について)についての
決定を次回5月12日まで延ばし、それまでに各人の具体的検討を期待する。